

令和4年度 第5学年 授業改善推進プラン

	伸ばしたい力(児童の実態、学習状況、指導の実態より)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の文章構成を理解し、要点をまとめて一文にまとめる。 ・自分の意見をまとめて、相手に伝わるように発表したり、聞いたりする。 ・文章の中で既習の漢字を使いこなす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめる活動を多く取り入れることによって、定着を図る。書くことに苦手意識のある児童についてはヒントを渡したり、ラインを引かせたりするなど個別指導していく。 ・自分の意見を発表したり、相手の話を最後まで聞いたりする活動を、できる範囲で工夫しながら設定していく。話型についてクラスのルール作りを徹底し、身に付けるようにする。 ・頑張っている姿を言葉にしてほめ、共有していく。普段のノートやプリント等に既習の漢字を使って書くように声がけし、添削するようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として必要な用語の定着。 ・単元(小単元)の終末場面で、それまでに調べて分かった社会的事象を関連付けたり、総合させたりして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得しておかなければならない最低限必要の用語や語句をリストアップし、日々の授業で意図的に指導する。 ・小単元の終末場面では、調べたことを整理する時間を設けるとともに、初めの学習問題に立ち返ってまとめるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能の定着。 ・既習事項を活用して応用問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を活用し、「東京ベーシック・ドリル」を用いて個に応じた技能の習熟を図る。 ・児童が主体的に考えたいような課題設定や導入場面の工夫をし、意欲的に取り組めるようにする。(ICT教材等や具体物も効果的に活用する。) ・応用的な問題に取り組む際、ただ計算するのではなく、根拠や考え方の理解に時間をかけて授業を展開していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科における問題解決学習の流れ(学習課題→予想→実験・観察→結果→考察)を身に付ける。 ・考察時、結果をふまえて自分の考えを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な教材を用意できるように準備する。実物の用意が難しい単元は、ICT教材を効果的に活用する。 ・考察をより深いものにするため、実験の結果からどのようなことが考えられるかを、児童の意見をまとめながら深めていけるようにする。 ・常に学習課題を意識させ、「何のために実験・観察をしているのか」問いかけるようにする。様子を観察し、段々とその問いかけを減らしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に込められた意味を考え、自分の思いをもって合唱する。 ・いろいろな楽器を演奏することや、みんなで合奏することを楽しむ。 ・鑑賞で、感じたことを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に関しては、歌詞に込められた思いを考えたり、曲の構成を考えて歌い方の工夫をしていく。 ・ICTの活用で、リコーダー、楽器の練習の仕方を工夫する。合奏でいろいろな楽器の音を聴き合い、共有していくようにする。 ・鑑賞について、思ったことを表現しやすくするために、ICTの活用を考えていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料から発想を広げて工作したり、表現したりする。 ・お互いの作品を認め合ったり、影響を受け合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りを目的としない造形遊びの活動を多く取り入れ、試行錯誤を繰り返すこと、失敗を生かしたりする経験や、偶然性の良さを感じることを積み重ね、自分の表し方に自信を付ける。 ・鑑賞の活動を多く取り入れ、お互いの考え方や表し方の違いを認め合うことを通し、自分の活動に自信をもたせる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに助言したり励まし合ったりする。 ・前向きに体育の学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に十分な準備運動を行う。運動強度を調節し、適宜休憩を入れるなど、無理のないよう、慎重に行う。 ・積極的に外遊びを推奨するなど、運動の楽しさを感じさせたり、運動の日常化を図ったりする。 ・技能の指導を重視するのではなく、友達との関わり合いや体を動かす心地よさにも着目させ、運動をすることに対して、より前向きに考えられるように授業の中で言葉掛けを行う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて行うことに興味・関心をもつ。 ・意欲的に技能を習得する。 ・学習したことを生活の場面に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に理解できるように拡大教材や映像教材を使用する。 ・実践的・体験的な活動を通して、達成感を得させることで、実生活に生かそうとする見直しをもてるようにする。 ・学んだことを家庭でも実践できるように、宿題等を工夫する。

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む。 ・難しい表現や音声が流れても、諦めないで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き前向きに学習に取り組む姿勢を保ちたい。 ・知識や技能に終始せずに、人と関わりもつことができる言語活動を含める。(当面は対担任、ALT) 楽しく英語を学ぶ環境づくりを行っていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をもつ。友達の意見から考えようとする姿勢。 ・自分の思いや考えを言葉にして表現したり、発表したりする。 ・自分に振り返って考える活動に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を引き出すことができる教材を用いたり、それぞれの価値観を認め合う雰囲気を作ったりする。 ・「ねらい」に向けて、的確に授業展開が行われているか検証し、児童が日常生活で活かすことのできる授業展開を工夫する。また、日ごろから教材研究に取り組む。